企画・制作／四国新聞社 広告局

香川リーダーズインタビュー2023

Leaders Interview KAGAWA 2023

（順不同）

小野

代表取締役社長 **小野 兼資** 氏

手芸専門店101店を全国展開

1989年から手芸の大型専門店「ドリーム」を展開し、昨年100店舗を突破。現在、全国各地の101店舗で、ハンドメイドや、既製品に少し手を加えるだけで温かみのあるグッズができる手芸の魅力を全国にアピール。手づくりならではの「ていねいな生活」を広めている。

昨年は、高松市に本社を置く企業であることを訴求するため、讃岐うどんや地元スイーツなどをプレゼントする感謝祭を開催。香川発、四国発の企業としての認知度アップを図るとともに、地元のPRにも一役買った。現在、石川、新潟、静岡などの新たなエリアにも積極的に店舗を展開。全国の各店舗で顧客満足度の向上を図り、さらなる知名度アップを目指す。「出店で終わりではなく、出店がスタート。その地で愛され、長く事業を継続できる店舗運営に努める」と気を引き締める。

これまでも会員制度はあったが、DX化に向けてアプリ会員制度を導入。顧客が求める商品や情報を個別に迅速に発信可能になった。「お客様一人一人に合わせたカテゴリー別の情報提供を販促につなげる」と意気込む。

小売業はインターネット通販と競合関係にあり、単価が低い商品は送料で購入が左右される。商品を受け取れる全国101店舗の受け皿が強みになる。店舗での講習会やスタッフによるアドバイスなどは、来店の動機づけになる。「今後も、リアル店舗の良さをフルに生かせるサービスを打ち出していく」と抱負を語る。

手芸センタードリーム高松南店
（高松市伏石町）

ドリーム
ONO 小野株式會社

● 高松市塩屋町14－5
● TEL 087(822)8883

ドリームホームページ

NTTコミュニケーションズ ドコモビジネスソリューションズ

四国支社長 **堀野 卓** 氏

ワンストップで社会のDXを支援

ICTの活用によって企業の経営課題の解決やスマートな社会の実現に取り組むNTTコミュニケーションズ。昨夏、新ドコモグループの新たなフォーメーションとしてBtoB事業を集約すると同時に、それぞれのエリアで営業を担う戦略子会社としてドコモビジネスソリューションズを創設した。

新事業ブランド「ドコモビジネス」のもと、大企業から中小企業、自治体まですべてをワンストップでサポート、社会や産業のDXを推進する。

「四国は少子高齢化、人口減少など日本が抱える課題が全国よりも先行する『課題先進地域』といわれている。5GやIoT、移動固定融合サービスなどの先端ソリューションによって社会や産業を変えていくことで、住みやすいまちづくりや産業の発展を進めていきたい」と意気込む。

四国でもすでに遠隔医療をはじめ、農業や漁業など第一次産業の現場でAIやIoTといった最新テクノロジーが活用されている。昨年は「男木島スマート交流プロジェクト」として男木小中学校の児童生徒の学習機会確保や高齢者の見守りシステムについて実証調査、ICTを通じた離島の課題解決の支援を行った。今後は産業用機器の遠隔操作の実現などを通じて人手不足の解消や生産効率の向上を目指す。

「全ての人にデジタルの利便性を感じていただけるよう『地域社会のDX支援』を進めていく。お客さまとイノベーションを起こし、四国を盛り上げていきたい」と意欲を語る。

錦町ビル

あなたと世界を変えていく。

docomo business

● 高松市錦町2－4－8
ドコモ錦町ビル
● TEL 087(811)5502

NTT Comオフィシャルサイト

ウェルズベルモニーグループ

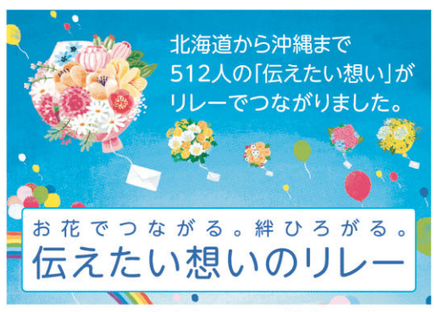
代表取締役 **武智 康行** 氏

「原点回帰」し、新たな歴史へ挑戦

人生のメモリアルをトータルでサポートするウェルズベルモニーグループ。創立50周年イヤーを迎え、「共に歩んでいただいた地域の皆さまに深く感謝する」と地元への思いを語る。昨年は感謝を伝える記念事業として、大切な人へ花束とメッセージをリレー形式で贈る「伝えたい想いのリレー」を実施。北海道から沖縄まで総勢512人が感謝や祝福、励ましなどそれぞれの気持ちを花束に込めた。「記念事業を通じて、人と人とのつながりの大切さを改めて感じた。今の時代にこそ、相互扶助の精神でつくられた『冠婚葬祭互助会』のシステムが必要だと思う」。

コロナ禍により、新様式が求められるようになった冠婚葬祭業界。葬祭部門は「家族葬」が浸透したことを踏まえ、昨年は納棺師がいる家族葬専用ホール「和（なごみ）」を県内11カ所にオープン。ブライダル部門も50周年記念挙式プランが好評だ。「儀式は喜びや悲しみを近しい人と分かち合う、心と心のつながり合い。リアルに会うことの大切さを感じてもらいたいからこそ、私たちは最大限の安全安心と、地域一番のおもてなしの心を届けていく。今後も時代のニーズを的確に捉え、新しい提案を続けていきたい」と力を込める。

周年を振り返り、「チャレンジし続けた50年だった。現在の社内テーマは『原点回帰』。創業時の『お客さまに喜んでいただく』という精神を改めて胸に刻み、これからも挑戦を続けていきたい」。新たな歴史を築く覚悟が光る。



ウェルズベルモニーグループ
創立50周年記念事業

ウェルズベルモニーグループ

● 高松市勅使町196番地1
● TEL 087(867)1317

ウェルズベルモニーグループ
ホームページ

綾川葬祭グループ

代表取締役 **伊藤 雄介** 氏

葬祭の困り事ワンストップで対応

昨年4月にオープンした「綾川樹木葬」をはじめ、5つの斎場を有する「綾川葬祭」、「綾川ペットセレモニー」の葬祭事業と和食料理店「綾瀬」などの飲食事業を展開する綾川葬祭グループ。時代の変化とともにニーズが多様化する中、事前相談から葬儀、法要、樹木葬の提案まで、葬祭に関する困り事にワンストップで対応している。

樹木葬霊園は宗旨宗派問わず埋葬可能で、同性婚の夫婦や家族同様のペットも一緒に入れるなどさまざまなニーズに沿える。昨年末には新区画「さくら」（限定10基）と合祀塔が新たに完成した。伊藤社長は「近年、少子高齢化や地方の過疎化などによって墓じまいを考える人や、宗教的・性的マイノリティの問題で埋葬に関する悩みを抱えている人が増えている。『家族で受け継ぐ墓』から『個人で選ぶ墓』へと意識が変化している。樹木葬の需要は今後ますます増加するだろう」と分析する。合祀塔は「身寄りのない人や独り身の人たちの社会的受け皿としても役立っていければ」との思いも語る。

今後、県内で新たな斎場や樹木葬霊園を展開していく予定だ。

事業拡大に伴って、中間管理職のスキルアップと社員のマルチタスク化を推進。「事業が多角化するほど社員のレベルアップが必要だ。将来的にはグループを統合させ、人事交流を図りたい。交流先で得た新しい視点や経験が、お客さまの気持ちに寄り添ったワンランク上のサービス提供につながる」とさらなる飛躍を見据える。

1000坪の敷地にある樹木葬霊園

綾川葬祭グループ
AYAGAWA SOUSAI GROUP

● 綾川町北1250－6
● TEL 0120(56)5940

綾川葬祭公式インスタグラム

アオイ電子

取締役社長 **木下 和洋** 氏

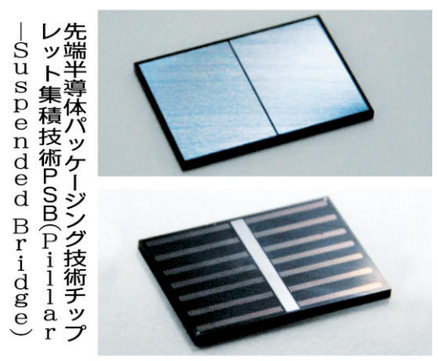
V字回復へ、怠りなく準備進める

半導体集積回路などの精密部品を製造、世界へ供給するアオイ電子。主力事業は「後工程」と呼ばれる半導体の組み立てとテストだ。「近年、後工程の果たす役割が拡大していることをチャンスと捉え、年間60億円規模の積極的な投資を進める。工場の拡張、生産能力の拡大、生産革新、自動化・省人化を目的に、従来からの主力製品に加え、先端パッケージの研究開発にも継続的に取り組み、新たな市場の開拓につなげたい」と力を込める。

昨年前半は世界的な半導体不足とコロナ禍によるサプライチェーンの崩壊を想定した各社の在庫積み増しなどから特需的な受注があったが、夏場以降は実需以上の供給体制が続いたことによって過剰在庫が顕在化した。さらに、パソコンや通信機器、家電などの需要が一巡したこと、中国でのロックダウン、欧米のインフレなどが重なり、厳しい状況が続いている。

それでも、「半導体は自動車、産業機器を中心に今後とも継続的な伸びが期待される分野。生産拠点である青森県や東京都の子会社との連携も強化し、グループとしてのシナジー効果を狙う。今年、第二四半期（7月～9月）以降のV字回復に備えて準備を怠りなく進めたい」と前を向く。

郷土の将来を見据えた若手の人材育成・強化にも注力。2017年に設立した「公益財団法人 大西・アオイ記念財団」を通じて県内の高校生や県内出身の大学生に給付するなど香川の発展に寄与している。



先端半導体パッケージング技術チップレット集積技術PSB（Pillar—Suspended Bridge）

アオイ電子

● 高松市香西南町455－1
● TEL 087(882)1131

アオイ電子ホームページ